事例No.	2779
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	越中大手市場実行委員会

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・地域運営組織 ・観光

事例種類	地域活性化

事例内容・タイトル

定期市「越中大手市場」の開催による賑わい創出

出典

令和４年度ふるさとづくり大賞事例集



定期市「越中大手市場」の開催による賑わい創出

越中大手市場実行委員会（えっちゅうおおていちばじっこういいんかい）

DATA

事　　例　名：越中大手市場実行委員会
所　　在　地：富山県富山市大手町4-21　秋吉屋内
連　　絡　先：TEL 076-421-5169
ホームページ：https://www.ooteichiba.com

取組の概要

2002年10月より富山市の中心市街地に位置する大手モールの歩道において、中心市街地の活性化を目的に20年にわたり継続的に3月～12月までの毎月1回（以前は毎月2回）の定期市を開催している。設立から3年間はまちづくり会社からの助成を受けたが、現在は補助金には頼らず、出店料による収入で運営を行っており、現在の実行委員会メンバーは一般市民や学生、地域の商店主が、ボランティアとして活動を続けている。富山市の中心市街地の衰退が顕著となった当時から、市民や民間事業者の立場で課題を提起しながら、継続して市場を開催しており、中心市街地の活性化を体現してきた市民活動である。

評価された点

- 20年間継続しており、経済的に自立できている。トランジットモール事業との共催や賑わいを創生している点も評価。
- 中心市街地で定期的な市場を開催しながら、賑わいを創出する活動を自主的に展開している点を評価。
- 日本全体において技術者不足や育成が課題となる中でインターンの発展型として新しいスタイルを地元企業と連携し構築させている。地元での採用が増えれば若い世代の移住も解決していくと思うので長い目で今後が楽しみな取り組みである。

取組のプロセス

取組を実施するに至った要因・背景や地域課題
その取組を実施するに至った要因・背景や地域課題について記載。

行政や外部からの支援
行政や外部からの支援などについて記載。

きっかけ 2002年～　商店主や一般市民等が中心市街地の衰退を目の当たりにする。

・行政、市民、地域が協力し、準備委員会を設置する。

2002年～

越中大手市場実行委員会の設立

・中心市街地の活性化を目的として越中大手市場（月に2回の定期市）実行委員会を設立。
・富山市の中心市街地に位置する大手モール（石畳の通り）の歩道において、2002年10月に第1回開催。



・市内路面電車の環状線化工事が始まる。

2009年

市内路面電車の環状線化後の運営検討

・環状線化に伴う工事により定期市は休止となるが、この期間を活用し、リニューアル開催に向けた新規出店者向け説明会の実施及び出店者選考を行い、魅力や賑わいの向上を目指す。



2013年～

・市民、民間企業が主体的に継続していくために検討した結果、スタッフの負担軽減、定期市事体の質の向上を図るため、月1回の開催に移行。

コンセプトを持った定期市の開催

・「おおてよるあそび」夜間の実施。



・「Bio marche」農薬・化学肥料不使用の野菜や、安心な県産食材を揃えた。



・富山市と連携。

2018年～

・市が実施する社会実験「トランジットモール事業」と共同開催。
・車道を通行規制し、市内電車と歩行者のみが行きかう新たな空間でさらなる賑わいの創出。



今後の展望
・引き続き、定期市を継続開催し、賑わいのさらなる定着化を図る。
・定期市以外にも、まちの賑わいとなる企画を立案、実行していく。

受賞者のコメント

この度は、このような賞をいただき運営者一同、大変嬉しく思っております。20年前に発足してから厳しい時期も多くありましたが、行政や近隣の方々のご支援もいただき継続することができました。昨今は来場者や出店申し込みも多く手応えを感じているところです。今後も苦戦が続く中心商店街の中で、周辺の方々の充実した暮らしの一助となれるよう努力いたします。